

# TV会議システムを使った高大連携遠隔授業の取組

山梨県立身延高等学校



初顔合わせ  
(二宮准教授)



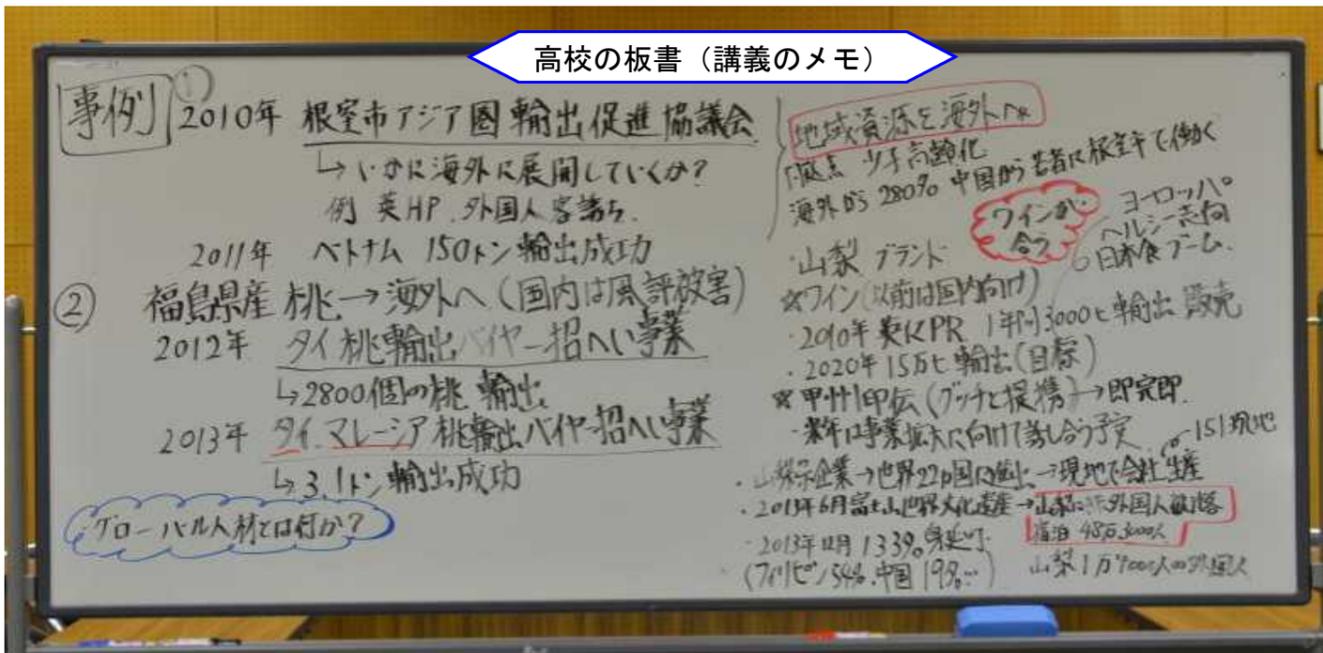
五味教諭  
(授業担当)

大型TVモニター  
(張兵教授)

マイク



講義内容  
をメモする



高校の板書 (講義のメモ)



大学側の板書



TVカメラ

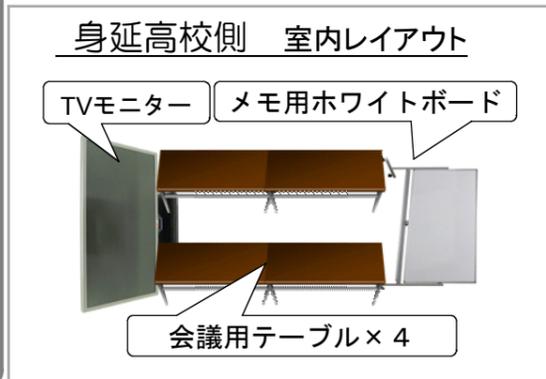
MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL

## システム構成図 (身延高校側)

身延高校側 TV会議システム(常設)



身延高校



総合教育センター



県立大学飯田キャンパス

## 実施内容と回数

回数	内容
第1回	「ガイダンス」
第2回	「未来の私、未来の身延（峡南地域）」
第3回	「田舎のイトコ、どう生かすのか」
第4回	「身延（峡南地域）がりのままの身延（峡南地域）であり続けるためには」
第5回	「世界と日本・山梨のつながりを考える」
第6回	「発表」

## 目指す生徒像

- ◎地域の中にありながら、深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる(実現できる)力を持った人物。
- ◎日本や世界に向けた情報の発信手段を考え、人と関わりながら実現できる人物。
- ◎国や自治体などに頼らないライフスタイルの実現ができる人物。

## 実施目的

地域の将来を考える人材の育成を目的とし、峡南地域の課題等を自ら探り出し、活気に満ちた地域社会の在り方を考える。さらに、自ら考える力、一歩踏み出す力、考え抜く力等を養うことを目的とする。

また、地域に提言することで、自らで地域社会を変革する力を身につけさせる。

## 現状と課題

今回の連携授業は、生徒が将来地域の活性化を担うような人材育成・啓発を主な目的としている点から、受け身の姿勢で授業に臨んでは意味がなく、いかに参加型授業にしていくかが課題である。

そのため、フィールドワークの導入やグループワークを取り入れた授業を展開していくことも望ましいと考える。

### 生徒の感想

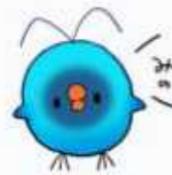
普段は考えることがない、自分の住んでいる地域を考えることができた。また、住んでいる地域のおかれている状況などを知ることができ、地域を活性化するためには、どうしていくべきか考える力がついた。

これからの自分たちに必要な授業だと感じた。



自分の住んでいる地域に対して考え、イメージが変わった。もっと、自分の住んでいる地域のことを詳しく知りたいと思った。また、私が住んでいる地域ならではの良いところを発見できた。

大学の先生や学生の方と交流することができて、大学の雰囲気などを感じることができて楽しかった。



私たちの住んでいる地域の良いところを知ることができた。また、峡南地域だけではなく、山梨の活性化に向けての活動も知ることができて良かった。



### 平成26年度のまとめ

身延高校の選択授業「現代社会研究」（選択者2年次生6名）と県立大学国際政策学部で、地域活性化策を考える課題解決型の連携授業を6回実施した。地域の将来を考える人材を育成する目的のもと、テレビ会議システムを使用して行った。

生徒はテレビ会議システムを使用した授業を受けたことがなく、授業を始めるまでは戸惑いを感じていた。しかし、最初の授業で二宮准教授とアシスタント大学生が来校して、顔合わせをしていただいたことで、生徒はリラックスして授業に臨めたようだ。

また、この授業が少人数授業であったため、授業内容を工夫することで、単に地域活性化策を考えるだけでなく、「主体性をもって問題を発見し、解決策を見いだしていく積極的な授業」や「生涯を通じて学び考えることで課題を乗り越え、人生を切り拓き、よりよい社会を形成することのできる人材育成の授業」の可能性が示された。